



◆今回の記録的大雪の除雪対応について

質問：郊外の歩道や通学路の除雪は住民の協力だけでは大変である。安全確保の観点から、除雪対応を検討すべき。

答弁：本市では、仙台駅周辺、泉中央地区、長町地区のバリアフリー経路の歩道と市内の横断歩道橋について除雪作業を行っている。このたびの状況の検証、課題整理を行うとともに、一定の財源的制約はあるが今後検討してまいりたい。

◆乳がん・子宮頸がん検診の受診体制の充実について

質問：働く世代の女性にとって、なかなか検診を受けたくても受けられないとの声が寄せられている。乳がんのマンモグラフィ検診と触診検査を同じ医療機関で受診できるよう改善すべき。また、休日・夜間対応の医療機関を増やすことや託児つき受診体制も必要である。きめ細かな取り組みで受診しやすい環境づくりに力を入れるべき。

答弁：平成13年度にマンモグラフィ撮影が導入された際に、撮影機器を有する総合病院などで撮影のみを行うこととし、総合病院としての機能に支障が生じないよう、マンモグラフィ撮影と視触診を行う医療機関の機能分担を図った。休日・夜間に検診ができる医療機関の拡充については、医療スタッフの確保などの点から難しいが、土曜日の午前中や平日の7時までの診療を行っている登録医療機関が多くなっているため、このような医療機関を受診していただけるよう周知に努めてまいりたい。

◆太白区青山地域の生活交通の取り組みについて

質問：住民の皆様が主体となって「この地に地域の足を確保したい。」との思いで、協議を重ねている。本市として、市民協働による生活交通の構築に向けて、採算性の課題を、住民と一体となって解決し、函館市の事例を参考に、さらなる支援強化を求める。

答弁：函館市の取り組みは、本市としても参考になる事例であると認識している。青山地区については、今後とも専門家派遣による技術的なサポートを継続し、支援を行ってまいりたい。

その他の質問項目

- ・市長の施政方針の「こどもを育み、ともに支え合う環境づくり」について。
- ・乳がん・子宮頸がんの未受診者対策として有効な個別受診勧奨の推進。
- ・生まれてくる赤ちゃんを先天性風しん症候群から守るため、風しん抗体検査の個別勧奨などの支援強化。
- ・多胎児（双子・三つ子）家庭の子育て支援の検討状況と訪問事業の拡充。

予算等審査特別委員会・土木費 (平成26年3月7日)



●復興公営住宅の入居促進対策について

質問：平成25年度整備の芦の口復興公営住宅の入居決定は、39戸中、14戸となっている。現在の状況をどのように分析しているか。

答弁：間取りが4DKの1タイプだけになっており、当初募集では4人以上の世帯だけの申し込みに限定したこと、住宅情報誌に掲載した写真がリフォーム前の古いもので、全面リフォームして新築同様になるという情報や学校が近いなどのPR不足なども、応募が少なかった理由と考えている。

質問：利便性を図るため、周辺の環境整備も必要である。芦の口住宅入口は通学路となっているが、一部歩道があるものの、急こう配のため歩道を設け、通学路の整備をすべき。また、学校が近く、地下鉄東西線開通に伴い長町八木山線も整備され交通環境が整っていく。子育て世代中心に入居していただけるよう、地域情報のさらなる拡充を図るべき。

答弁：東側道路については、幅員7m程度であるため、歩道の設置は難しいが、歩行者の安全対策のため、関係部局と協議してまいりたい。平成26年度の募集にあたっては、住宅情報誌については、新しい写真なども掲載して、全面的にPRしてまいりたい。

その他の質問項目

- ・平成27年度整備予定の茂庭台復興公営住宅について、周辺の環境整備とともに地域情報の広報拡充で入居促進対策。
- ・今回の大雪について、町内会との連携強化と除雪作業等の情報発信。課題となった排雪対策。

